



平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年7月29日

上場取引所 東

上場会社名 キョーリン製薬ホールディングス株式会社
コード番号 4569 URL <http://www.kyorin-gr.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山下 正弘

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 伊藤 洋

TEL 03-3293-3420

四半期報告書提出予定日 平成23年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	24,809	0.6	4,100	85.0	4,300	77.6	2,697	49.9
23年3月期第1四半期	24,655	5.9	2,216	△29.8	2,421	△29.2	1,799	△9.0

(注) 包括利益 24年3月期第1四半期 2,892百万円 (62.3%) 23年3月期第1四半期 1,781百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	36.10	—
23年3月期第1四半期	24.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第1四半期	145,433	111,980	77.0
23年3月期	147,234	111,706	75.9

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 111,980百万円 23年3月期 111,706百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	10.00	—	35.00	45.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	10.00	—	35.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	49,200	5.3	6,100	45.2	6,400	40.9	4,000	35.2	53.53
通期	106,500	2.3	16,600	1.0	17,200	0.5	10,900	△0.3	145.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期1Q	74,947,628 株	23年3月期	74,947,628 株
② 期末自己株式数	24年3月期1Q	220,559 株	23年3月期	219,032 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期1Q	74,727,866 株	23年3月期1Q	74,743,474 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(6) その他の注記事項	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における国内医薬品業界の状況は、薬価改定や新たな医療費抑制策の実施はなかったものの、企業間の競争激化など経営環境は厳しさを増しております。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による経済活動の停滞や夏場の電力不足の問題等の影響も懸念され、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しました。

なお、当社グループへの震災による直接の被害は軽微であり、製品の供給等につきましては、懸念されることはありません。

このような状況下、当社グループは、中期経営計画「HOPE100—ステージ1—（平成22年度～平成27年度）」の2年目として、事業戦略である「ファーマ・コンプレックス・モデルの具体化」「ヘルスケア新規事業の創出と育成」の達成に努め、持続成長とステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上に取り組んでおります。

医薬品事業では、国内新医薬品におきましては、主要製品の普及の拡大に努め、後発医薬品では市場ニーズに応える営業展開を推進しましたが、震災に伴う3月期末の流通在庫増加による反動の影響から、当第1四半期連結累計期間の売上は、前年同期に対し横ばいで推移しました。海外新医薬品におきましては、主要製品の輸出が好調に推移し、売上は前年を上回る実績となりました。ヘルスケア事業では、景気低迷の影響等もあり売上が若干の減少となりました。この結果、売上高は248億09百万円と前年同期比1億54百万円（前年同期比0.6%増）の増収となりました。

利益面では、原価率の低い自社製品の売上増加、工場稼働率の向上等により原価率が約4ポイント低減し、売上総利益は165億31百万円と前年同期に対し10億48百万円増加しました。販売費及び一般管理費は、研究開発費の減少等により前年同期に対し8億35百万円減少したため、営業利益は41億00百万円と前年同期比18億83百万円（前年同期比85.0%増）の増益となりました。また、経常利益は43億00百万円（前年同期比77.6%増）、当四半期純利益は26億97百万円（前年同期比49.9%増）となりました。

当第1四半期連結累計期間の業績

売上高	248億09百万円	（前年同期比	0.6%増）
営業利益	41億00百万円	（前年同期比	85.0%増）
経常利益	43億00百万円	（前年同期比	77.6%増）
当四半期純利益	26億97百万円	（前年同期比	49.9%増）

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①医薬品事業

〔国内新医薬品〕

呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科を中心とする特定領域の医師、医療機関に営業活動を重点化するフランチャイズカスタマー（FC）戦略及び卸店政策の強化により、製品の普及の最大化を推進し処方数量の増加、売上拡大に努めました。他方で、平成23年3月に発生した震災に伴い、在庫不足を考慮した前倒し発注により、流通在庫が3月期末に増加し、その反動により売上高は前年同期に対し横ばいの200億75百万円（前年同期比0.5%減）となりました。主要製品では、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」が好調に推移しましたが、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペントサ」は前年を下回りました。

〔海外新医薬品〕

広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン点眼液（導出先：米国アラガン社）」の売上が前年を上回り、売上高は10億72百万円（前年同期比71.2%増）となりました。

〔後発医薬品〕

昨年度より推進されている後発医薬品の使用促進策（薬局の調剤基本料における後発医薬品調剤体制加算の見直し）等により保険調剤薬局への売上は増加したものの、販社ルートでの売上が減少し、売上高は20億69百万円（前年同期比3.5%減）となりました。

〔一般用医薬品他〕

景気の低迷する中、主要製品である哺乳びん殺菌消毒剤「ミルトン」は営業力を強化することで前年程度の売上を確保しましたが、その他の製品売上が前年を下回り、売上高は9億65百万円（前年同期比4.9%減）となりました。

この結果、当セグメントの売上高は241億83百万円（前年同期比1.0%増）となり、営業利益は40億56百万円（前年同期比89.5%増）となりました。

②ヘルスケア事業

ナノカプセル技術を応用した化粧品事業を行うドクタープログラム(株)の売上が前年を下回る実績となりまし

た。この結果、当セグメントの売上高は6億25百万円（前年同期比10.6%減）となり、営業損失は28百万円（前年同期は22百万円の営業損失）となりました。

当社グループの中核事業における研究開発の状況は、以下のとおりです。

当社グループでは、自社創製品、導入品、既存品のライフサイクルマネジメント（新効能・効果取得、剤型追加）により特定領域において魅力ある製品パイプラインの構築に取り組んでいます。自社創薬活動では、研究領域を呼吸器・泌尿器・感染症・その他に重点化し、効率的かつ効果的な新薬創製に努めています。

当第1四半期連結累計期間におきましては、開発パイプラインのステージアップなどの進展はなかったものの、潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ」の新用法・用量に関するPhⅢ臨床試験、気管支喘息治療薬「KR P-108」のPhⅢ臨床試験等に積極的に取り組みました。その結果、研究開発費は、29億31百万円（前年同期比29.3%減）となりました。前年同期から研究開発費が減少した要因は、前年同期に気管支喘息治療薬「KR P-108」のPhⅡb臨床試験終了に伴う大型の費用などが発生したためです。なお、糖尿病合併症治療剤「AS-3201」につきまして、大日本住友製薬㈱と共同開発を進めてまいりましたが、昨今の当社グループを取り巻く経営環境に鑑み、事業戦略上の観点から共同開発を中止し、同契約を解消することにいたしました。

生産面では、製品の安定供給を第一と考え、夏場の電力不足等も考慮し、当第1四半期連結累計期間に能代工場（秋田県）での増産を行うとともに同工場での冬場の節電対策として全面自家発電に切り替える取り組みを開始いたしました。当社グループは、今後も高品質の製品を安定的に供給できる体制の構築を推進してまいります。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末は、流動資産が商品及び製品、原材料及び貯蔵品の増加、現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少等により29億58百万円減少しました。また、固定資産は有形固定資産の減少、投資有価証券の増加等により11億58百万円増加しました。その結果、資産は前連結会計年度末と比較して18億00百万円減少し、1,454億33百万円となりました。

負債は、短期借入金、未払法人税等、賞与引当金の減少等により、前連結会計年度末と比較して20億75百万円減少し、334億52百万円となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加等により、前連結会計年度末と比較して2億74百万円増加し、1,119億80百万円となりました。

この結果、自己資本比率は77.0%となり、前連結会計年度末より1.1ポイント上昇いたしました。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間までの業績は概ね予想通りに推移しており、平成23年5月11日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては現段階では変更いたしません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,518	22,752
受取手形及び売掛金	42,594	38,651
有価証券	6,976	7,474
商品及び製品	10,471	11,279
仕掛品	1,024	881
原材料及び貯蔵品	8,868	9,726
繰延税金資産	2,618	3,219
その他	6,420	7,536
貸倒引当金	△65	△53
流動資産合計	104,427	101,468
固定資産		
有形固定資産	14,916	14,535
無形固定資産		
のれん	339	301
その他	476	439
無形固定資産合計	816	740
投資その他の資産		
投資有価証券	21,660	23,315
繰延税金資産	4,111	4,111
その他	1,724	1,684
貸倒引当金	△422	△422
投資その他の資産合計	27,073	28,688
固定資産合計	42,806	43,965
資産合計	147,234	145,433

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,852	10,253
短期借入金	6,996	4,271
未払法人税等	3,437	2,292
賞与引当金	3,222	1,608
返品調整引当金	52	32
ポイント引当金	59	56
その他	5,801	10,121
流動負債合計	30,421	28,637
固定負債		
長期借入金	449	390
退職給付引当金	3,765	3,570
役員退職慰労引当金	23	25
その他	867	829
固定負債合計	5,105	4,815
負債合計	35,527	33,452
純資産の部		
株主資本		
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	106,928	107,010
自己株式	△304	△307
株主資本合計	112,076	112,156
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△137	39
為替換算調整勘定	△232	△214
その他の包括利益累計額合計	△370	△175
純資産合計	111,706	111,980
負債純資産合計	147,234	145,433

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
売上高	24,655	24,809
売上原価	9,171	8,277
売上総利益	15,483	16,531
販売費及び一般管理費	13,267	12,431
営業利益	2,216	4,100
営業外収益		
受取利息	71	50
受取配当金	48	60
受取賃貸料	68	66
持分法による投資利益	14	14
為替差益	4	—
その他	9	34
営業外収益合計	217	225
営業外費用		
支払利息	12	13
為替差損	—	11
その他	0	1
営業外費用合計	13	26
経常利益	2,421	4,300
特別利益		
投資有価証券売却益	6	—
特別利益合計	6	—
特別損失		
固定資産除売却損	0	1
投資有価証券売却損	0	—
投資有価証券評価損	0	7
ゴルフ会員権評価損	1	—
特別損失合計	2	9
税金等調整前四半期純利益	2,425	4,291
法人税、住民税及び事業税	1,069	2,318
法人税等調整額	△443	△725
法人税等合計	626	1,593
少数株主損益調整前四半期純利益	1,799	2,697
四半期純利益	1,799	2,697

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,799	2,697
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17	176
為替換算調整勘定	4	17
持分法適用会社に対する持分相当額	△4	0
その他の包括利益合計	△17	195
四半期包括利益	1,781	2,892
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,781	2,892
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	23,955	699	24,655	—	24,655
セグメント間の内部売上高又は 振替高	6	0	6	△6	—
計	23,961	700	24,661	△6	24,655
セグメント利益又は損失 (△)	2,140	△22	2,117	99	2,216

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額99百万円は、主にセグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	24,183	625	24,809	—	24,809
セグメント間の内部売上高又は 振替高	20	0	20	△20	—
計	24,203	626	24,829	△20	24,809
セグメント利益又は損失 (△)	4,056	△28	4,027	72	4,100

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額72百万円は、主にセグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) その他の注記事項

(追加情報)

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。